

第18回 遺族会ネットワーク

2020年10月31日、第18回関西遺族会ネットワークを開催しました。

コロナ禍でオンラインの開催ではありましたが、多くの運営者の方にご参加いただきました。コロナ禍における遺族会開催について、「対面での知恵」「オンラインでの知恵」について情報の共有をしました。当日参加してくださった運営者の皆様からお寄せいただいた声をホームページに掲載しますのでどうぞご覧ください。



対面での遺族会の知恵の共有

● 遺族会の開催状況

1. 6月くらいから対面での開催を再開（毎月、隔月等）

オンライン開催が難しいため、今後も対面での開催を継続する。

オンラインで実施したが難しかった、参加者の中にはPCがリビング等にあり家族間の悲嘆反応の違いもあり、オンラインでの分かち合いへの参加が難しいとの意見もある。

2. 感染対策

手指消毒、換気、マスク、検温、健康チェック、ソーシャルディスタンスの確保、ラインの追跡システム導入、茶菓の提供無し

3. 参加者の変化

遺族会への参加者数に変化なし、または増加傾向、新規参加者もいる。

遺族の居場所作りになっている。開催場所が感染者の多い地域である場合は、減少傾向。

● 課題

1. 会場の問題

公共施設等の使用制限に開催が左右される。

ソーシャルディスタンスを保つため、分かち合いの声が聞こえにくい。

外の騒音が分かち合いの際、支障となる。

2. スタッフの問題

ソーシャルディスタンスを保つため、通常よりスタッフが多く必要で、その確保が難しい。休会中のスタッフ間のコミュニケーションが難しかった。

今後の大規模イベントの開催をどうするのかが、課題。6月に講演会を開催した会もあるので、参考にする。

3. 感染対策

冬になるため、換気と暖房等、室温調整が難しい。

インフルエンザの流行等、感染状況の先が見えない。

4. 中止等の連絡手段

中止となった場合は、参加者に対してはホームページでの告知、または直接連絡。



対面での遺族会の知恵の共有

1. 感染症対策で会場に人が入りきらないため、人数制限をしている。申込順のためリピーターの方で予約が埋まってしまい、新規の人が参加しづらい。
2. 会の性質上人数制限をすることが難しいので、大きな会場を探そうとしている。そのためスタッフの負担が増加している。
3. 今はオフィスの部屋を会場として使っているが、前はそれより小さい部屋で行っていた。会場が大きくなり、会の雰囲気づくりに戸惑っている。
4. 今は問題ないが、冬になったとき換気を行えるか心配。
5. 遺族会に行こうとしても、コロナを心配して家族に反対される人もいる。
6. オンラインと対面の両方を行っているが、別々の日程で行うためスタッフの負担になる。
7. コロナが収束した後、以前来てくれていた人が戻ってきてくれるのかが心配。
8. オンライン開催すると、対面に来ることができる方も足を運ばなくなる可能性があるので、遠方の方限定でオンライン開催をしている。
9. スタッフ間の連絡の取り方がコロナ前とは変化した。打ち合わせはオンラインでやる方がやりやすい面もある。
10. コロナの影響で一時ストップしていたが、対面での会を再開したときに「会うだけでぜんぜん違う」と感じた。言葉にならないこともキャッチできる。
11. 自分の運営している会は当日来た人を受け入れるので、事前の人数調整ができない。現在は人数が多くなって困ったことは無いが、人数がこれから増えることがあれば考えていかなければいけない。
12. コロナ禍でも今まで通り会を行ってきたが、繋がりあえない今だからこそ、対面での会を中止するのではなく1つの手段としてオンライン開催のことも考えてみようと思う。



オンラインでの遺族会の知恵の共有(1)

● 遺族会の開催状況

1. オンラインでは最大4名で、1時間半から2時間弱の時間を設定して開催している。皆が話しやすいように、人数は少なく設定しているが、まだ時間が足りないという声もある。ホームページとSNSなどを使って会の案内をしている。
2. オンライン上で開催をするときは、対面に比べて話をしてもらいやすいように配慮をしている。
3. 終了後にメールを送ったりという配慮をする。
4. 高齢の独り暮らしの方へ電話をしている。人と話す機会を待っている方が多い。
5. オンラインでは遠方でも参加できるというメリットはあると思う。
6. 若い方が多いので、オンラインへの対応には慣れている。そういったことから、オンラインで今後も継続して進める方向で考えている。
7. 元々、オンラインでのやり取りが多い会だった。実際に出かけていくよりもオンライン上でのやり取りをすることは心理的な障壁が無いと感じる方もいる。SNSなどのやり取りが増えた。
8. 小学生が参加している場合もある。子どもがいる参加者は、子どもの面倒を見る人がいないということで参加できないという現状もある。オンライン上だと参加しやすいという声もいただいている。
9. ネットの接続が上手くいかない参加者のために、その対応ができる専属のスタッフを配置し、Zoomの別室を設置する措置を取っている。
10. 現在は子どもが参加する遺族会を対面でしているが、今後学校が休校になる状況になった場合、オンラインでやる必要も出てくるのでオンライン開催を検討している。
11. オンライン開催をする前にスタッフで何回もロールプレイをした。対面でしていたようなケアをできるかどうか試した。
12. プライバシーの観点から、場所を用意して来てもらいそこでオンライン遺族会をすることにも意味がある。
13. オンラインでの運営側の背景画像は、参加者が気にならないようなものにしている。
14. オンラインに参加する人は対面の会があるところ以外の地域の方に限定している。
15. オンラインも使いできるだけ会が休みの期間を少なくし、ご遺族が孤立しないようにしていきたい。



オンラインでの遺族会の知恵の共有(2)

● 課題

1. 会に参加しているメンバーが高齢の方が多い。オンラインでは対応できない方もいて、難しいという思いがある。
2. オンライン上では、ファシリテーターや参加者の慣れは会の進行に大きく関わると思う。やはり、特にファシリテーターの練習は必要になってくるだろう。オンライン上では、沈黙が考え中なのかただ単なる通信障害なのかが分かりにくい。とても難しいと感じる。
3. オンライン上では、日常の延長で参加をしないとイケない面があり、辛くしんどいといった声がある。
4. 対面では相手の空気感を感じることができる。オンライン上では、終了した後にはどのように思っているか、どのように過ごしているか、とても気になる。
5. 機械の操作が難しいと感じ、まだまだ道半ばで努力をしなければならないと感じる。オンラインでは出かける手間がないという面では良いのかもしれないが、参加者としては出かけていくことが目的であったりするので、それが良いのか悪いのかは分からない。
6. オンラインでは、相手への気遣いが生まれてしまい、話をしにくいという場合がある。対面とオンラインの2分立てですることができれば良いのではと思っている。
7. オンライン上では、話の進行の仕方にも四苦八苦しているのが現状。
8. 対面では、人が集まって皆で集まって歌うことができていた。一方で、オンラインでは皆で歌を歌おうと思ってもなかなかテンポを合わせるのに苦労する。
9. スタッフ間の交流が減り、コミュニケーションが取れていない部分もある。
10. 初めて参加した「わかちあい」がオンラインだった人は、参加自体を喜んでくれるが、対面に慣れている者にとっては、臨場感が伝わりにくく思える。
11. オンラインでは声が大きい人以外がしゃべりづらくなるので、ファシリテーターが「～さんどうですか」と話を振る必要があるが、それで話しやすくなる人もいれば話を聞くだけでよかったのと思う人もいる。
12. オンラインでの会の終わり方について悩んでいる。
13. 子どもが参加する遺族会の場合、最後に一人ずつ名前を呼んで終わるやり方がいいかもしれない。退室するタイミングが分かりやすい。
14. 通常子どもの会の場合は親と子どもを分けて行っている。しかし、子どもの年齢によってはPCの操作ができないので子ども一人にするのも問題がある。
15. 子どもの会では大人の会のように語り合うのではなく、子どもが遊んでいるところにファシリテーターが寄り添うことをしていたので、オンラインでそれをどうするべきか。
16. オンラインでの遺族会を対面のものに近づけることには限界があると思う。